

草薙の剣にまつわる法海寺の謎

熱田神宮に伝わる酔笑人神事

(別名 オホホまつり)

中日新聞より H25.5

天智天皇の7(668)年、法海寺の開基とされる道行法師が関わった事件が発端となり、その20年後の朱鳥元(686)年から始まった神事。1300年以上もの古から伝わる出来事が、法海寺と熱田神宮の不思議な因縁の謎を解き明かす。

のユニークな祭り「酔笑人神事」が行われた。写真。明かりを消した真つ暗闇の境内に、神職十六人の高らかな笑い声が響き渡り、五百人の参拝客を

◇…名古屋
市熱田区の熱田神宮で四日夜、毎年恒例のユニークな祭り「酔笑人神事」が行われた。写真。明かりを消した真つ暗闇の境内に、神職十六人の高らかな笑い声が響き渡り、五百人の参拝客を

◇…「オホホまつり」
とも言われ、横笛の合図で、全員が「オホホ」と大声で笑った。なぜ暗闇か。厳粛な存在の神職は日中、歯を見せて大笑いできないため、闇夜に紛れることを望んだとか。これほど奥ゆかしい「爆笑」ほ他に類を見ない。



楽しませた。
◇…祭りの由来は六八六年にさかのぼる。神宮のご神体で三種の神器の一つ「草薙の神剣」が盗まれ、二十年ぶりに神宮に帰還した時、神職らが大いに喜び祝った故事が今に伝わっている。